

III 養豚部門

1. 診断農家成績の分析概要

平成 30 年度畜産経営技術高度化促進事業実施にあたり、養豚部門の経営診断指導対象（経営診断に基づく改善指導 3 戸、生産技術指導 2 戸）の中から総合的な分析に必要な数値が把握できた 3 事例について概要を述べる。

(1) 経営の概況

- ◆ 3 事例とも繁殖・肥育一貫経営であり、すべて養豚専業経営である。
- ◆ 経営組織として 3 事例（No.1・No.2・No.3）全てが法人経営ある。
- ◆ 労働人員 1 人当たり母豚飼養頭数は全 3 例の平均で 56.3 頭であった。

(2) 繁殖成績

◆ 人工授精の活用

3 事例の平均母豚飼養頭数 308 頭に対して、平均飼養種雄豚数は 11.3 頭で、雄豚 1 頭当たりの母豚数は平均 27.2 頭（頭）となっている。これは自然交配主体（以下 NS）か人工授精技術活用（以下 AI）かによって異なる。

3 農場全てで AI を活用しており、利用方法は自家採取での 100%AI または購入精液である。100%AI 活用農場での雄豚保有頭数は母豚 13.9～43.0 頭に対して 1 頭で、比率の低い農場は F₁ 生産のための純粋雄豚（L・W）を抱えていることが関係していると思われる。

◆ 1 腹当たりの生存子豚、離乳子豚頭数と育成率

1 腹当たり生存子豚頭数は平均 11.1 頭（10.6～11.4 頭）で指標値 10.6 頭を 0.5 頭上回った。生存産子数が指標とされる 10.6 頭を下回る事例は無く良好な成績となった。今後とも分娩時の助産や交配適期をつかみ、ずれによる受胎数（総産子数）の低下を防ぎ、日常の発情チェックや夏場の精液チェックなど季節ごとに応じた交配妊娠管理を行う等、生存産子数の増加に努めて欲しい。

1 腹当たり離乳子豚頭数の平均は 10.2 頭（9.4～11.2 頭）で、指標値 9.8 頭より 0.4 頭上回り、1 農場（No.1）を除き指標値をクリアーした。

離乳子豚数は生存子豚数や育成率などによって大きく変動する。正常な飼育管理下における 1 腹当たりの産子数は、母豚の品種構成や遺伝的資質によるところが大きく、これに交配時の発情状況（交配適期）と交配精液性状、種付け回数などが総合されたものであるため、人為的に大幅増やすことは難しいものの、離乳子豚数の改善策としては分娩施設面の見直し、分娩・哺乳時のきめ細やかな管理や分割授乳の導入、夏場の圧死対策などの飼養管理改善による育成率の向上を目指す方が容易であろう。

育成率は平均 89.9%となり、90%に達したのは 1 事例あり、90%に達しない経営は哺乳豚管理の見直しが必要。特に哺乳中子豚事故で 1 腹当たり 1 頭以上を損耗している事例については、分割授乳の実施による虚弱死の低減や哺乳子豚管理の見直しが必要である。

◆ 離乳日令と分娩回転数

3 事例の平均離乳日令は 25.0 日で前年より 0.6 日短くなった。3 事例とも大きなバラツキはなかった。

分娩回転数の平均は 2.3 回転で、最低値 2.2～最高値 2.3 と非常に安定している。

◆ 更新率

3 例の種雌豚更新率平均は 48.9%であったが、更新に際しては年間を通じて毎月安定した分娩数が得られるように計画的に行なうことが望ましく、また、淘汰・更新は固体ごとの繁殖成績記録によって的確に行い、母豚群の平均産次を 4～5 産にすることが望ましい。

(3) 肥育成績

◆ 母豚 1 頭当たり出荷頭数

1 母豚当たり出荷頭数は、19.6～23.8 頭となり、平均は 21.1 頭と前年平均より 0.5 頭の減となった。指標値の 21.4 頭をクリア一できた農場は No.3 の 1 事例で、安定的な離乳頭数と分娩回転数により出荷頭数を確保できている事例である。平均値は指標値より若干低い数値となった。出荷頭数が少ない場合の原因としては、いろいろな要因が複合した結果ではあるが、その主な要因として考えられるものに育成率の低下につながる哺乳中子豚の事故と離乳後の育成から肥育出荷までの事故による損耗がある (No.1・No.2)。

◆ 事故率

離乳から出荷までの事故率の平均は 7.6%となり前年度より上昇傾向にある。年々減少傾向にあったものの昨年度より No.1 の農場で平均事故率 9.9%→11.6%となり秋口から冬場にかけて呼吸器系と思われる事故率の上昇が見られた。農場間較差は 3.0%～11.6%と大きいものとなった。

近年、PRRS や PED 等の新しい病気や、ヘモフィルス、パストレラ等の慢性呼吸器疾病も広く浸潤している中で事故率 3%以下という指標は高いハードルとなっているが、4%前後まで各農場が到達し日々の飼養管理や衛生管理が数字となって表れた結果となつた。

◆ 肉豚・枝肉の出荷

本年度の平均出荷生体重は 117.3kg で前年平均と比べ 0.9kg 上回った。平均枝肉重量は 77.5kg で前年平均と比べ 0.4kg 上回り、肉豚出荷豚の枝肉歩留まり率は平均で 66.0%となつた。ここ数年は全国的に出荷頭数の減少により早出し傾向が続き、出荷体

重も減少していたものの、一昨年から枝肉平均で2kg増加し全ての経営で指標値75kg上回った。

◆ 飼料要求率

本成績の農場飼料要求率の積算は、農場内での飼料給与総量を肉豚出荷生体量と候補豚頭数(110kgと推定)の合計体重で除したものであり、活豚出荷、棚卸体重の増減を見ていよい。

農場飼料要求率は平均で3.17(3.07~3.27)であった。農場要求率には事故率が大きく影響し、特に肥育中期以後の事故が大きく関与するので事故内容を把握した損耗防止対策が必要である。

(4) 収益・経済性分析

◆ 種豚1頭当たり生産物売上高

養豚一貫経営における収益性を検討するにあたり、母豚1頭当たりの生産物売上高をみると表-2・表-3にあるように、平均892,406円(766,343円~1,034,884円)で前年平均より20,788円の増収であった。

出荷豚の枝肉1kg当たり販売額は表-3に示すように平均554円となり、前年度平均と比べ27円の増額となった。

戸々で見るとNo.1は547円(前年532円)、NO.2は562円(前年520円)、NO.3は553円(前年530円)と3農場とも高値更新となった。各経営の決算期の関係による市場価格差もあり一概に比較出来ない部分もあるものの、銘柄豚生産割合や上物率等の違いも、価格差を大きくする要因の一部である。

肉豚出荷価格の年間変動は大きく、出荷のタイミングによって同質の肉豚でも大きな収益差が生じる。平成29年度の東京市場上物価格は平均528円で本年度調査3農場の年間枝肉価格平均554円で上物平均価格の26円高となった。

平成29年度 東京市場 上物平均枝肉卸売価格 (円/kg)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
484	593	638	551	502	518	486	512	536	493	520	499

◆ 生産費

種雌豚1頭当たりの生産費用及びその構成費目の内訳については表-2に示すとおりである。

種雌豚1頭当たりの3事例平均生産費用は625,039円となり、その構成費割合を円グラフにしたものが図-1である。平均では構成費割合の大きい順に、飼料費が半数の50%を占め、次いで人件費(給与手当+役員報酬)が19%、衛生費10%、これらの主要3費目で79%となった。また各農場の主要費目割合を棒グラフにしたものが図-2

である。

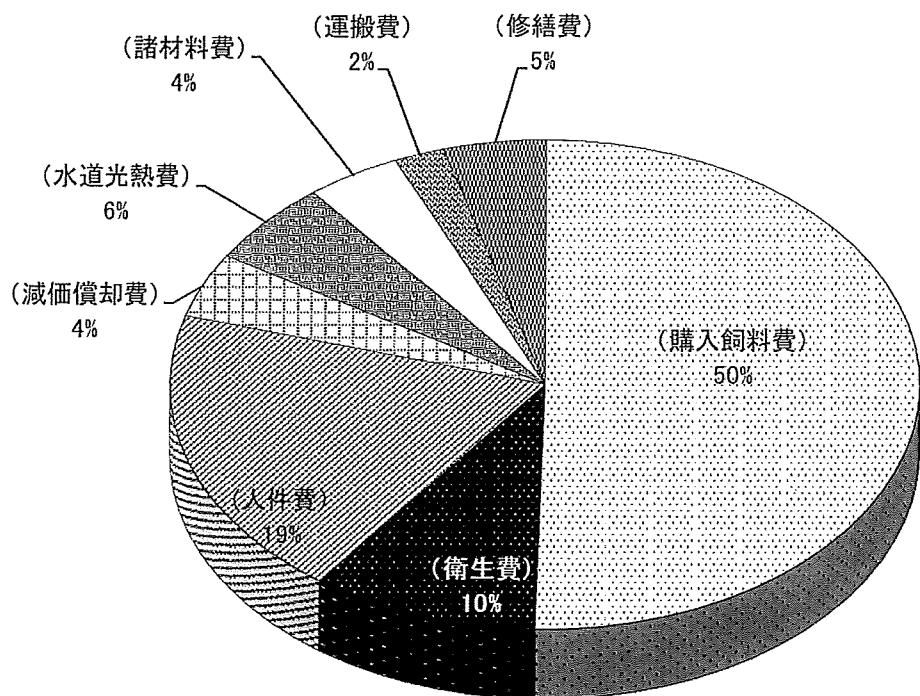


図-1. 生産費用の構成比割合

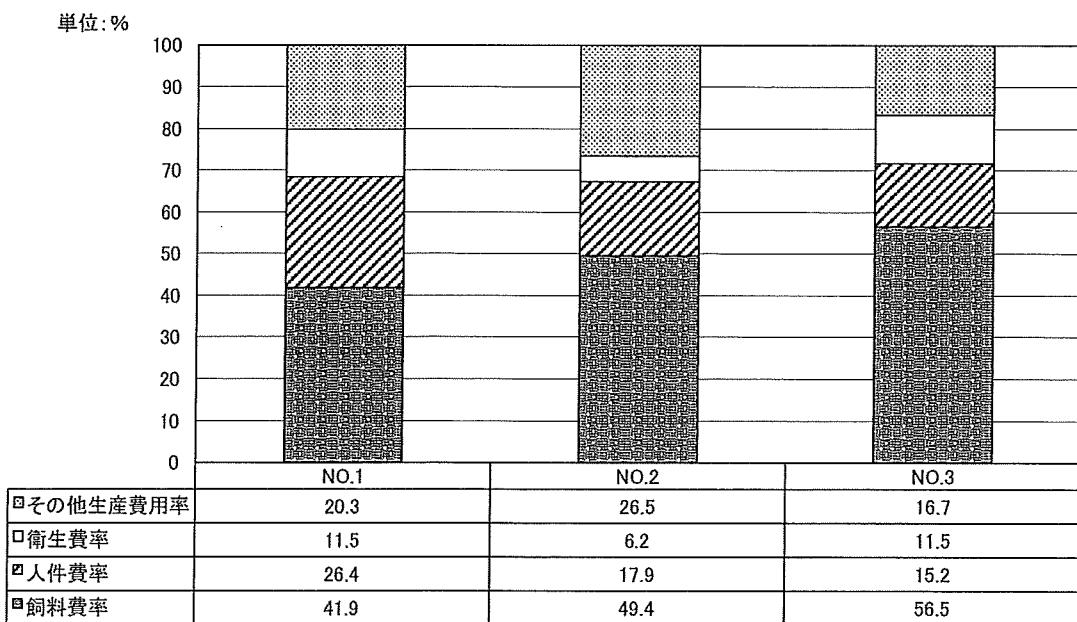


図-2. 生産費用の構成比割合

◆ 売上高に占める主要生産費の割合

売上高に占める各生産費目の割合は、図-3に示すとおりである。飼料費の割合については3農場の平均は34.2%で前年より6.2%低下した。

種雌豚1頭当りの生産物売上高と生産・販売費用を対比してみると、図-4のようにNo.1の経営で生産・販売費用が生産物売上高より若干上回った。当期利益では補填金、奨励金等の事業外収益によりプラスとなった経営もあるものの養豚生産物売上高で生産費用を上回る良い結果となった。

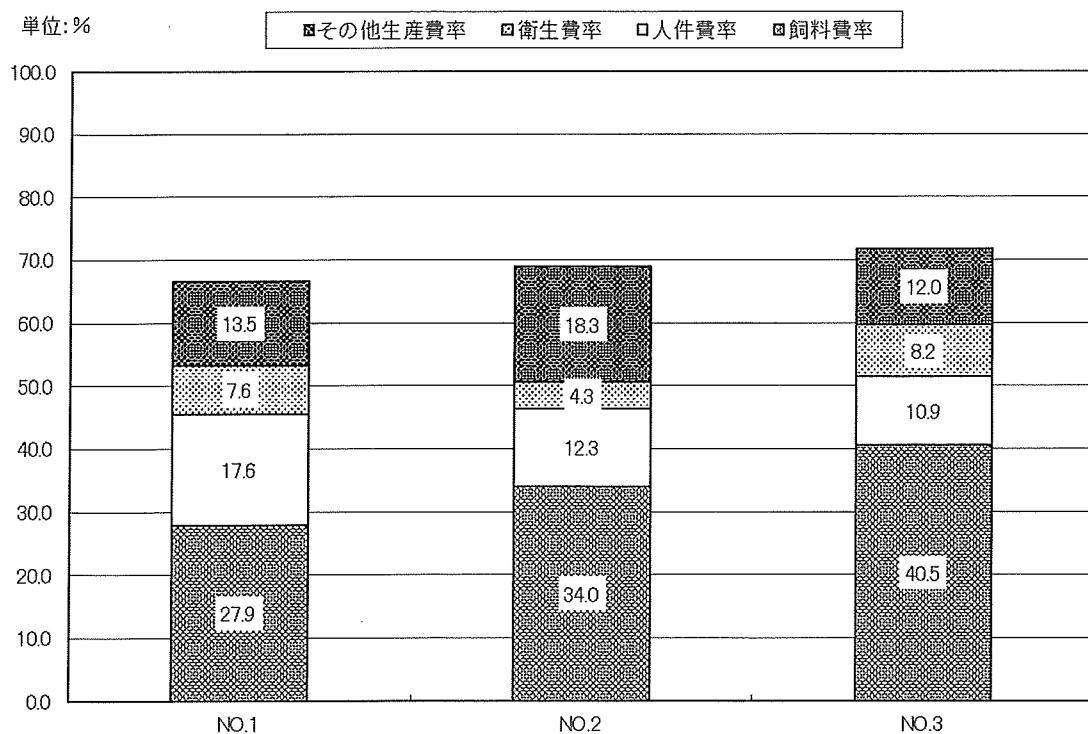


図-3. 売上高に占める主要生産費の割合

◆ 飼料価格

生産費で最大構成比率を占める飼料費の1kg当たり加重平均価格は表-3に示すように3事例中2事例のデータ集計であったが43.3円となり前年平均より0.7円安となった。それぞれの飼料単価については、年間全飼料購入金額を全購入量で除したもので、自家配合（原材料価格のみで労賃をみない）、をしているところ等があるため単純に比

較はできない要素もあるが、購入単価以外にも飼料給与体系の検討が望まれる。また、食品未利用資源の活用により、飼料単価を抑えている事例もある。

◆ 種豚1頭当たり利益

1母豚当たりの飼料費（加重平均）は313,165円（前年比88.7%）となり、母豚当たりの生産原価では638,838円（前年比97.8%）と飼料費削減が全体の生産原価を下げる結果となったが、これは一昨年より枝肉卸売価格相場が安定している事もあり、一部の農場での資材や消耗品等の費用計上がみられた結果でもある。また、売り上げに関しては、種雌豚1頭当たりの当期利益の平均は69,746円となり前年平均と比べ▲26,505円と減額になったが利益を見越して前年に比べ修繕費や材料費が増えた事例が見られたことによる。

単位:千円

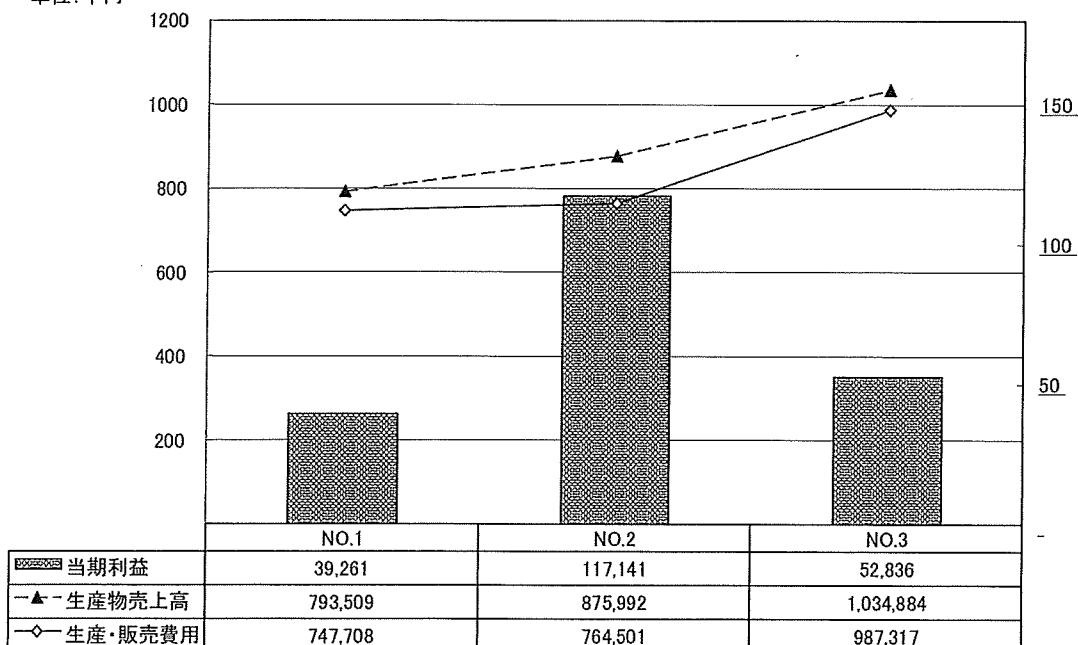


図-4. 種豚1頭当たり売上高と経常利益

◆ 種雌豚当たり所得

3事例の種雌豚1頭当たり所得平均は90,476円（70,885円～127,748円）となり、指標値の10万円以上の所得があった事例は1事例となった。所得は当期利益に役員報酬又は家族労賃を加えたもので、役員報酬（家族労賃）の高低が大きく関係している。

2. 指導の方向と対策

関東でのP E Dが未だ散発し出荷頭数の減少等もあり、相場は高値で推移した。また農場の防疫対策の強化により衛生費が上昇したままの経営も見られるなど、生産原価は

平均では減額したものの、前年度よりやや上昇した経営もあった。今後ともP E D侵入防止対策等による衛生費はある程度かかることが予想されるため、生産性向上による効率の良い経営を行うことが重要である。

(1) 繁殖性向上対策

◆ 受胎率の向上

受胎率向上には授乳母豚の個体栄養管理を徹底して行い、適度なボディーコンディションで離乳し、5日以内での発情再帰を促し、初発情交配で85%以上の受胎率を目指したい。

受胎の成否は自然交配、人工授精を問わず交配適期の把握が最も重要であり、そのためには発情状況の観察を注意して行い、2~3回の複数回交配が望ましい。最近では深部注入型のカテーテルも普及し的確に精液を注入することにより受胎率や産子数の安定化につながっている事例もある。自家採取の人工授精に当たっては正常精液の利用が前提であり、定期的な精液検査は欠かせない。

再発情豚の交配に当たっては、発情徵候、交配時期に留意し、さらに不受胎となつた場合の供用継続か更新かについては早期に判断する。妊娠鑑定は早期に確実に行い、空胎豚の無駄な飼養を無くし、妊娠豚に関しては個体管理を徹底して事故防止に努める。また、受胎率低下は夏場交配（暑熱環境）によることが多く、雄豚へのドリップクーリングや気温の上がらない早朝に交配を行うなどの夏場対策が必要である。

◆ 育成率の向上

種雌豚1頭当たりの生産性を上げるには、育成率の向上と安定が欠かせない。育成率向上の要点は、哺乳子豚の飼養・衛生管理で、本事例中の哺乳子豚事故内容として虚弱と圧死によるものが多く、虚弱に関しては妊娠豚の適切な栄養管理を行い、なるべく虚弱子豚を出さないよう心掛ける。また、圧死に関しては分娩房の構造や子豚の居住環境、母豚の性質・泌乳能力、夏場に圧死が多い場合には暑熱環境による母豚の水飲み回数（起き上がり回数）が哺乳子豚の圧死事故につながる場合もあり、季節や温度管理、施設構造など幾つかの要因が考えられるので、原因の究明と対策が必要である。県内の優良事例では分割授乳や授乳母豚の飼料給与中は哺乳子豚を隔離することで圧死等の事故低減を図り、育成率の向上に成功している事例もあることから、分娩看護及び哺乳管理に問題のある事例はこうした、管理も取り入れながら、改善に取り組んで欲しい。また、十分な労働力の確保が難しい時に疎かになりがちな部分でもあり、今後の改善には均一的な労働力確保か計画的な交配分娩管理も必要。

(2) 肥育成績向上対策

◆ 種雌豚当たり出荷頭数の増頭と事故率の低下

対象経営における肥育成績の改善ポイントは種雌豚1頭当たり出荷頭数、即ち枝肉出荷量の向上にある。

県畜産経営指標の肥育技術では肉豚出荷生体重115kg前後で枝肉重量75kg前後となっており、これら指標値をクリアーするためには、多様化する疾病に対する予防対策の徹底と密飼い等の飼養管理を改善することにより、生産した豚の損耗を防止し事故率の低下に努め、1母豚当たり年間出荷頭数21.4頭以上、出荷枝肉量1,600kg以上を目指して欲しい。また、今後は多産系との交雑や改良などによる生産子豚の増頭も考えられるため、哺乳管理や離乳舎以降の飼育密度や換気などに留意したい。

離乳後事故率に関しては、表一4にあるように平成19年以降、減少傾向にあつたが、近年は若干上昇傾向にある。事故の内容は主にPRRSと呼吸器系による被害が多く、離乳後30kgまでの事故が目立っている。オールイン・オールアウト後の徹底した洗浄・消毒・乾燥の実施、外部導入豚の馴致や作業域の区別や人の流れ、ピッグフローの見直し等、各農場での問題点の把握と各機関との連携による改善が必要である。

◆ 出荷豚（肉質）評価の向上

肉豚評価を左右する主な要因は概ね3つに大別される。

- ① 素豚（遺伝的要因）
- ② 飼養技術（飼料の質・栄養水準と給与方法、豚群の編成等）
- ③ 出荷技術（出荷日令・体重・出荷先選定）

最も基本的な要因は①の遺伝的資質であるが、これは母豚群の品種・系統構成によるもので長期にわたるデータに基づく選抜が基本で短期的な改良は難しい。

飼料の質と給与方法については、素豚の資質にあった栄養レベルの飼料により適度な発育の早さ（出荷日令と体重）で高い上物率が得られるよう飼料の選択と給与をする。

同時離乳腹数の多い大型経営ではできるだけ同質、近似日令の豚群編成に心掛け、雄雌別群として豚群の資質と発育ステージにあった段階的飼料栄養水準飼料の給与（フェイズフィーディング）を行う。

肉豚出荷に対しての個体チェックは不可欠であり、個体計量はその基本である。個体標識により、個体経歴から枝肉評価まで一連のデータとしてその結果が次の交配や選抜・淘汰にフィードバックできるシステム化が望ましい。

(3) 畜産環境対策

家畜排泄物は、これまで畜産業における資源として農産物や飼料作物の生産に有

効に利用されてきた。しかしながら、近年、畜産経営の大規模化の進行、高齢化に伴う農作業省力化等を背景として家畜排泄物の資源としての利用が困難になりつつある一方、地域の生活環境に関する問題も生じている。

畜産経営に起因する環境問題発生率は、家畜飼養規模の拡大や混住化の進展等に伴い増加している。そうした中で、苦情の内容は全家畜を通じて悪臭関連が最も多く、ついで害虫発生や水質汚濁である。家畜排泄物について、その適正な管理を確保し、堆肥として活用するなどの資源としての有効利用を一層促進していく必要がある。

◆ 臭気対策

畜舎内の臭気は舎内にある糞尿の量に左右され、畜舎内の基本的な臭気対策は糞尿の早期搬出の励行である。また、周辺の住宅事情等によっては周囲から苦情の出る前に消臭剤・脱臭剤の利用など、先手を打った行動が極めて重要である。

また、近年は脱臭対策の研究も進み、海外の脱臭装置や畜舎内ミスト等を活用した粉塵対策を行うことにより臭気低減の取組研究なども行われている。

◆ 堆肥の流通促進

有機農産物需要を背景に家畜糞の需要があるものの、都市近郊では露地野菜からハウス栽培への変更や高齢化による耕作放棄地の増加などにより、堆肥の需要も減少傾向にあり、地域を越えた広域流通化も視野にいれる必要がある。

今後、畜産サイドも堆肥づくりだけでなく、いかに利用者側の意見や希望を吸収し製品を提供できるかが課題になる。まずは生産した堆肥の成分程度は知つておく必要があるだろう。

(4) 食肉の販売取り組み

◆ 安全性・信頼性をアピールできる県産豚肉の生産・販売

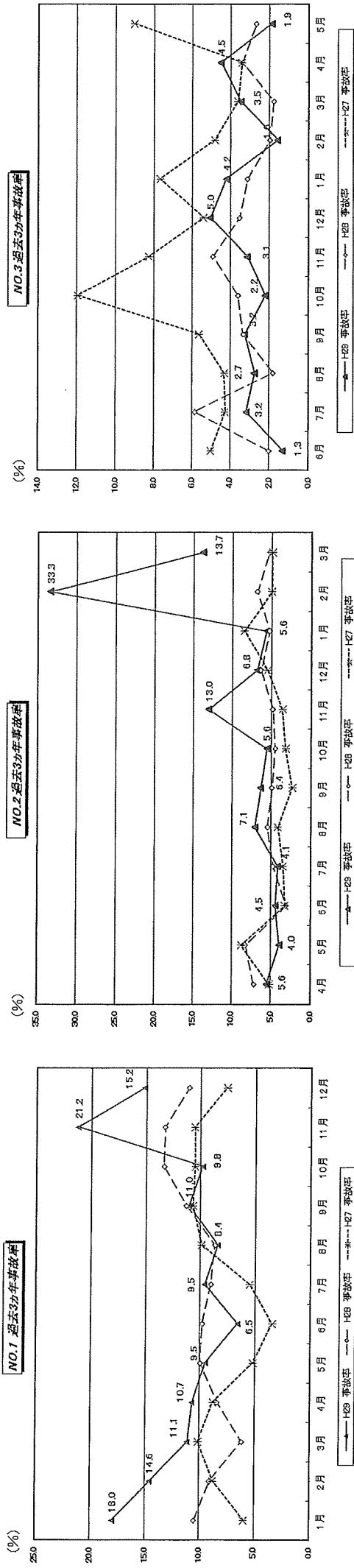
近年、国内外の家畜や家禽の疾病の発生に伴い、消費者は食肉の安全性・信頼性にとても高い関心を持つようになった。これからは消費者に対する食肉の安全性・信頼性の提示は必要不可欠なものとなる。そのためには生産段階での適切な飼養管理をきちんとを行い、より健康で安全な食肉を消費者に提供しなければならない。また、近年、農場段階でのHACCP構築が取組まれ始め、飼養衛生管理基準の遵守をはじめ、農場の各作業工程をきちんと管理することで、農場内にある危害要因を管理コントロールし、安全な食品原料を供給することで、国内畜産物の安全性をより消費者に対してアピールしていく重要なツールとなると考えられる。今後、農場から食卓までのトレーサビリティーシステムの構築やJGAP認証への取組みなど消費者の目に見える安心安全を目指す。

3. 経営診断分析図表

表-1 平成29年度 差額経営技術分析数値(経営規模・繁殖・生産技術)

区分	項目	一貫経営																		
		(H25) NO.1	(H26) NO.1	(H27) NO.1	(H25) NO.1	(H26) NO.2	(H27) NO.2	(H25) NO.2	(H26) NO.3	(H27) NO.3	(H25) NO.3	(H26) NO.3	(H27) NO.3	(H25) NO.3	(H26) NO.3	(H27) NO.3	(H25) NO.3	(H26) NO.3	(H27) NO.3	
規格	経営形態	一貫経営																		
労働力	1頭当り飼養母豚頭数	1.6	1.6	1.6	1.4	1.5	4.0	4.3	4.5	3.9	3.9	3.0	2.4	2.2	2.1	2.2	2.2	2.5	3.9	1.5
繁殖	1頭当り総仔子数	12.0	11.4	11.8	11.8	11.6	12.8	13.1	13.5	13.2	12.9	12.7	12.4	12.2	12.2	12.7	12.4	12.9	11.6	11.6
	1頭当り母仔子豚頭数(頭)	11.2	10.6	10.9	11.0	10.6	11.8	12.4	12.2	11.8	11.4	11.0	10.9	10.7	10.8	11.2	11.1	11.4	10.6	10.6以上
	1頭当り離乳仔子豚頭数(頭)	9.3	9.4	9.7	9.8	9.4	10.3	10.2	10.7	10.7	9.9	10.1	10.4	10.2	10.2	11.2	10.2	11.2	9.4	9.8頭以上
	母豚頭当生仔仔豚頭数(頭)	24.4	25.6	25.5	25.6	24.6	27.9	28.4	28.8	26.5	25.7	25.0	25.1	24.3	25.6	25.6	26.3	25.6	24.6	24.4頭以上
	母豚頭当離乳仔子豚頭数(頭)	21.3	22.3	23.0	22.6	21.7	24.9	23.5	25.6	23.6	21.8	22.3	24.5	23.1	23.9	25.1	22.9	25.1	21.7	22.5頭以上
	1頭当離乳仔子豚頭数(頭)	1.2	1.0	1.1	1.3	1.3	1.4	1.8	1.6	1.2	1.4	0.9	0.6	0.5	0.5	0.7	1.1	1.4	0.7	0.8頭以下
	比率 成育率(%)	82.8	88.1	88.6	88.5	88.1	87.3	82.9	87.3	90.8	86.6	91.2	95.2	94.9	94.1	95.2	89.9	95.2	86.6	92%前後
	年間離乳日令(日)	24.6	24.5	26.0	26.8	25.5	25.7	25.8	26.5	26.4	26.1	26.1	25.8	23.5	23.7	23.3	25.0	26.1	23.3	25%前後
	母豚更新率(%)	42.3	41.0	36.3	38.2	36.4	39.7	33.6	21.4	44.3	45.7	48.8	49.3	61.1	62.8	64.5	48.9	64.5	36.4	40%前後
	荷分塊回転(回)	2.17	2.41	2.33	2.32	2.32	2.36	2.30	2.36	2.24	2.25	2.27	2.30	2.26	2.38	2.35	2.30	2.3	2.2	2.3回以上
	1母豚当年間出荷頭数(頭)	19.2	20.8	19.9	19.6	18.2	23.2	23.2	22.8	23.3	21.2	22.4	23.6	21.4	22.0	23.8	21.1	23.8	18.2	21.4頭以上
	肉豚出荷1頭生体重(kg)	113.1	110.1	112.7	113.8	120.0	108.6	105.8	111.1	113.7	112.7	114.9	116.1	118.1	121.7	119.2	117.3	120.0	112.7	115kg前後
	1頭当り接肉量(kg)	74.1	72.1	73.8	74.5	78.6	71.8	70.9	74.5	76.2	75.4	75.9	76.7	78.0	80.5	78.7	77.5	78.7	75.4	75kg前後
	母豚1頭当出荷枝肉量(kg)	1,386.3	1,467.6	1,441.0	1,384.9	1,401.3	1,634.6	1,625.6	1,681.0	1,735.4	1,559.8	1,662.2	1,777.8	1,666.2	1,725.7	1,874.4	1,611.8	1,874.4	1,401.3	1600kg以上
	農場別(種別)飼料要求量						3.27	3.32	3.12	3.03	3.07	3.26	3.28	3.38	3.44	3.27	3.17	3.07	3.4%以下	
	枝肉経営飼料要求量						4.9	4.95	4.67	4.62	4.72	5.04	5.09	5.13	5.21	4.96	4.84	4.96	4.72	
	平均(離乳一出荷)(%)	5.2	5.6	8.0	9.9	11.6	4.1	4.6	4.8	5.5	8.3	4.5	3.2	5.9	3.1	3.0	7.6	11.6	3.0	3%以下

* 1頭豚当年間出荷頭数 = (肉豚出荷十繁殖豚頭出荷+十仔豚出荷)/年間平均母豚頭



表一2 平成29年度 種姓豚1頭当たり損益分析表

項目	販売品名	(H25)		(H26)		(H27)		(H28)		(H29)		(H25)		(H26)		(H27)		(H28)		(H29)	
		(No.1)	(No.2)	(No.1)	(No.2)	(No.1)	(No.2)	(No.1)	(No.2)	(No.1)	(No.2)	(No.1)	(No.2)	(No.1)	(No.2)	(No.1)	(No.2)	(No.1)	(No.2)	(No.1)	(No.2)
期首 備蓄	82,560	94,228	89,277	86,987	83,555	123,673	99,543	96,481	96,859	89,850	263,134	227,998	203,076	200,473	124,619	200,473	83,535	83,535	83,535	83,535	
(購入 飼 料 費)	291,866	320,775	331,334	311,208	221,672	384,549	329,491	345,351	341,780	298,239	460,353	480,336	413,322	405,775	419,583	313,165	419,583	221,672	221,672		
(衛生 費)	57,810	47,581	54,690	60,068	60,672	28,875	34,846	31,076	32,342	37,326	66,372	92,483	85,945	102,259	95,354	61,117	85,354	37,326	37,326		
(運搬 費)	1,820	5,466	5,943	12,190	14,059	14,509	16,956	17,380	18,407	18,101	7,566	5,882	7,700	6,652	7,927	13,362	18,101	7,927	7,927		
(諸 材 料 費)	7,966	10,223	3,000	14,212	24,547	7,221	12,707	12,108	13,519	23,789	14,888	9,088	21,637	27,715	27,348	25,228	27,348	23,789	23,789		
(修繕 費)	8,916	39,933	9,528	11,356	9,791	5,857	7,454	49,080	33,334	53,887	8,027	19,321	16,714	20,518	19,603	27,760	53,887	9,791	9,791		
(水道光熱費)	23,062	25,756	26,674	27,453	28,146	39,351	42,806	35,897	29,180	40,495	42,881	44,441	35,661	37,258	34,983	34,541	40,495	28,146	28,146		
(減価償却費)	17,982	103,639	25,734	25,725	27,286	19,596	15,755	17,192	14,990	20,402	35,011	39,163	34,552	31,034	31,576	26,425	31,576	20,402	20,402		
(人件費)	106,573	118,844	111,843	129,944	139,801	105,354	112,943	98,862	97,472	107,830	82,768	107,823	79,023	92,720	113,048	120,226	139,801	107,830	107,830		
飼養維持費	1,710	608	871	13,144	3,421	1,487	0	214	3,268	3,428	1,708	374	878	2,286	2,793	3,214	3,428	2,793	2,793		
生産費用	518,279	673,668	569,619	605,299	529,405	607,299	577,138	607,158	584,292	603,497	719,575	798,911	695,433	726,216	625,039	742,216	529,405	529,405			
期末 備蓄	△ 91,423	△ 87,748	△ 84,669	△ 87,939	△ 84,533	△ 97,287	△ 96,104	△ 100,196	△ 82,961	△ 81,822	△ 250,855	△ 233,148	△ 213,108	△ 197,366	△ 159,756	△ 108,721	△ 81,822	△ 159,756	159,756		
当期生産原価	498,416	668,970	574,227	596,068	517,533	622,030	570,242	603,443	588,519	595,020	715,672	828,897	710,323	731,326	732,932	631,848	732,932	517,593	517,593		
販売管理費計	186,498	244,447	192,344	208,925	230,115	157,373	205,790	187,351	163,159	169,481	158,354	195,977	168,102	158,421	204,384	201,327	230,115	169,481	169,481		
事業外費用	11,561	16,456	28,961	4,303	151,282	5,210	13,138	8,916	4,292	3,324	1,469	1,917	2,561	803	558	51,721	151,282	558	558		
費用合計	696,475	929,873	795,531	809,297	898,980	784,613	789,170	799,710	755,971	767,825	875,495	1,026,791	880,985	891,150	987,874	884,896	987,874	767,825	767,825		
生産物売上高	658,758	870,322	830,924	791,378	793,509	797,519	934,522	891,747	902,067	875,992	851,523	1,014,648	867,393	921,408	1,034,884	901,462	1,034,884	793,509	793,509		
(肉豚売上高)	644,842	838,280	742,542	736,747	766,343	797,519	841,942	872,396	902,067	875,992	800,105	1,000,456	867,393	911,631	1,034,884	892,406	1,034,884	766,343	766,343		
事業外収益	69,353	99,089	58,493	118,654	74,216	31,673	8,989	9,796	8,148	8,973	24,985	13,526	17,555	3,516	5,826	29,672	74,216	5,826	5,826		
総収益	728,110	969,411	890,463	910,031	938,251	829,192	943,511	910,543	910,215	884,965	876,508	1,028,174	884,948	924,924	1,040,710	954,642	1,040,710	884,965	884,965		
当期利益金	31,635	39,538	94,932	100,734	39,261	44,580	154,341	101,833	154,244	117,141	1,014	1,383	3,962	33,774	52,836	69,746	117,141	39,261	39,261		
所得額	70,760	79,952	134,590	136,510	70,885	97,182	212,165	117,240	164,691	127,748	13,936	14,938	9,854	40,842	72,794	90,476	127,748	70,885	70,885		

表-3 平成29年度 農場別経済性分析表

項目	頭数 No.	(H25) NO.1	(H26) NO.1	(H27) NO.1	(H28) NO.1	(H25) NO.2	(H26) NO.2	(H27) NO.2	(H28) NO.2	(H25) NO.3	(H26) NO.3	(H27) NO.3	(H28) NO.3	平均	最大値	最小値	指標	
1. 売上高飼料費率 (%)	41.5	36.9	39.9	39.3	27.9	48.2	35.3	38.7	37.9	54.1	47.3	47.7	44.0	40.5	40.5	27.9	50%以下	
2. 売上高人件費率 (%)	15.1	13.7	13.5	16.4	17.6	13.2	12.1	11.1	10.8	12.3	9.7	10.6	9.1	10.1	10.9	13.6	17.6	10.9
3. 売上高衛生費率 (%)	8.9	5.5	6.6	7.6	3.6	3.7	3.5	3.6	4.3	7.8	9.1	9.9	11.1	8.2	6.7	8.2	4.3	17%前後
4. 売上高支払利息率 (%)	0.7	0.5	0.3	0.5	0.4	0.6	0.5	0.4	0.4	0.4	0.2	0.2	0.2	0.1	0.0	0.3	0.0	8%以下
5. 売上高純利益率 (%)	4.5	4.5	11.4	12.9	4.9	5.6	16.5	11.4	17.1	13.4	0.1	0.1	0.1	0.5	3.7	5.1	0.0	3%以下
6. 売上高所得率 (%)	10.1	9.2	16.2	17.4	8.9	12.2	22.7	13.1	18.3	14.1	1.6	1.5	1.1	4.4	7.0	10.0	14.1	6%以上
7. 飼料1kg平均価格 (円)						49	42	45	43	41	55	55	49	45	45	43.3	45	41
8. 生体kg当り販売額 (円)	304	374	338	349	358	322	348	348	349	376	317	374	344	350	365	367	376	358
9. 生体kg当り生産原価 (円)	235	299	261	282	242	245	238	242	226	259	285	298	275	278	262	254	262	15%以上
10. 桜肉kg当り販売額 (円)	465	571	515	532	547	488	519	519	520	562	480	566	521	530	553	554	562	547
11. 桜肉kg当り生産原価 (円)	359	456	399	431	369	381	351	359	339	382	429	469	426	425	418	418	418	369
12. 出荷豚1頭販売額 (円)	34,422	41,199	38,038	39,663	42,949	35,050	36,796	38,669	39,635	42,364	36,433	43,380	40,622	42,642	43,508	42,940	43,508	42,364
13. 出荷豚1頭生産原価 (円)	26,605	32,878	29,416	32,090	29,008	27,338	24,922	26,748	25,858	28,776	32,588	35,941	33,266	34,236	32,915	30,233	32,915	28,776
14. 母豚当り売上高 (円)	658,758	870,322	830,924	791,378	793,509	797,519	934,522	891,747	902,067	875,992	851,523	1,014,648	867,393	921,498	1,034,884	901,462	1,034,884	793,509
15. 母豚当り生産原価 (円)	498,416	668,970	574,227	596,068	517,593	622,030	570,242	603,443	588,519	595,020	715,672	828,897	710,323	731,926	782,932	631,848	782,932	517,553
16. 母豚当り純利益 (円)	31,635	39,538	94,932	100,734	39,261	44,560	154,341	101,833	154,244	117,141	1,014	1,383	3,962	33,774	52,836	69,746	117,141	39,261
17. 母豚当り所得 (円)	70,760	79,952	134,590	136,510	70,885	97,182	212,165	117,240	164,691	127,748	13,936	14,938	9,854	40,842	72,794	90,476	127,748	70,885

表-4 神奈川県養豚経営技術分析結果の平均値

年 度		20('08)	21('09)	22('10)	23('11)	24('12)	25('13)	26('14)	27('15)	28('16)	29('17)
診断集計戸数(戸)	3	3	4	4	3	3	3	3	3	3	3
労働力人員(人)	4	4	6	4.3	3.9	3.9	3.9	4.0	4.0	4.0	4.0
母豚常時飼養頭数(頭)	220.2	224.9	367.4	252.6	307.7	309.2	304.4	302.7	301.9	308.3	308.3
雄豚常時飼養頭数(頭)	8.4	8.8	21.1	9.1	11.8	12.5	11.8	12.1	10.9	11.3	11.3
1腹当生存仔豚頭数(頭)	10.9	10.9	10.3	10.4	11.0	11.3	11.3	11.3	11.2	11.1	11.1
1腹当離乳仔豚頭数(頭)	9.2	9.3	9.0	9.3	9.6	9.9	10.0	10.2	10.2	10.2	10.2
1母豚当年間離乳頭数(頭)	20.3	21.5	20.0	20.4	22.2	22.9	23.4	23.9	23.4	22.9	22.9
育成率(%)	84.7	85	87.5	89.7	87.2	87.1	88.7	90.3	91.1	89.9	89.9
分娩回転数(回)	2.28	2.37	2.23	2.22	2.31	2.27	2.34	2.32	2.31	2.30	2.30
離乳日令(日)	25.6	26.3	25.7	25.2	25.3	25.5	25.4	25.3	25.6	25.0	25.0
母豚更新率(%)	36.6	27.1	41.2	44.4	43.4	43.6	41.3	39.6	45.1	48.9	48.9
1母豚当たり肉豚出荷頭数(頭)	19.4	19.1	19.3	19.4	21.4	21.6	22.5	21.4	21.6	23.3	23.3
肉豚出荷体重(kg)	113.5	115.0	114.3	113.0	112.6	112.2	110.7	114.0	116.4	117.3	117.3
1頭当たり枝肉量(kg)	74.3	75.3	75.5	74.6	74.2	73.9	73.2	75.4	77.1	77.5	77.5
1母豚当たり枝肉出荷量(kg)	1,430.7	1,412.3	1,427.3	1,422.1	1,555.2	1,561.0	1,623.7	1,596.1	1,615.3	1,611.8	1,611.8
事故率(離乳一出荷)(%)	9.7	7.2	7	4.1	4.7	4.6	4.5	6.2	6.2	7.6	7.6
農場飼料要求率	3.48	3.46	3.58	3.49	3.54	3.27	3.30	3.25	3.24	3.17	3.17
枝肉飼料要求率	5.27	5.33	5.47	5.32	5.37	4.97	5.02	4.9	4.92	4.84	4.84
(参考)	69	71	—	64	61	59	57	—	52	52	52
県内豚飼養戸数(戸)	76,800	79,700	—	74,900	71,600	69,000	67,000	—	73,100	71,900	71,900
県内1戸当たり平均飼養頭数(頭)	1113	1122	—	1170	1173	1169	1175	—	1,406	1,383	1,383

神奈川県 養豚経営経済性分析結果の平均値

	年 度	20('08)	21('09)	22('10)	23('11)	24('12)	25('13)	26('14)	27('15)	28('16)	29('17)
	診断集計戸数(戸)	3	3	4	4	3	3	3	3	3	3
経 濟 性 指 標	1母豚当たり売上高 枝肉kg当たり単価 1母豚当たり飼料費 飼 料 単 価 1母豚当たり生産原価 1母豚当たり純利益 売上高飼料費率 売上高人件費率 売上高衛生費率 売上高支払利息率 売上高純利益率 売上高所得率	759,013 517 403,063 53.6 659,728 △ 4,130 52.6 15.5 6.4 1 -0.7 10.0	634,725 436 345,370 45.5 589,404 △ 36,050 53.9 18.3 7.6 1.2 -4.9 7.7	647,589 442 313,985 40.3 567,859 △ 24,721 48.5 49.8 18.6 5 1.0 -3.2 6.3	664,551 452 331,252 44.8 572,341 △ 19,283 49.8 48.8 16.4 7.2 0.6 -3 6.5	690,129 425 339,011 (52.2) 559,652 7,033 612,039 25,743 689,370 65,087 47.9 48.8 14.9 6.8 0.7 1 3.4 8.0	769,267 478 378,923 (48.3) 612,039 689,370 629,331 66,909 39.8 69,338 66,909 42.1 12.7 6.8 0.5 7 11.0	939,831 552 376,867 (47.1) 689,370 65,087 629,331 96,251 40.4 11.2 6.7 0.4 7 10.1	863,355 518 363,336 (44.0) 629,331 66,909 638,838 96,251 12.4 7.4 0.3 7.8 13.4	871,618 527 352,921 (48.3) 638,838 66,909 96,251 52,472 13.6 6.7	901,462 530 313,165 313,165 609,428 52,472 34.2